

令和3年6月24日(水)に開催した令和3年度第1回公立大学法人静岡文化芸術大学経営審議会の結果は次のとおりである。

1 議案

(1) 令和2事業年度 業務実績報告書(案)について

ア 趣旨

事務局から、令和2事業年度業務実績の概要について説明があった。続いて、教育研究に関する事項について、教育研究担当の高田理事、法人運営に関する事項について総務担当の伊熊理事より説明があった。

イ 主な意見

・評価についてはもう少し簡略化できないか。

→現在、令和4年度から始まる第3期中期計画を策定中であり、第2期では約140あった項目数を70程度に集約しようと努力している。

・授業アンケートの回答率は平成29年から毎年下がっており、令和2年前期では15%くらい落ちている。事業計画を立てる段階で、何%まで上げるかということを明確に数字で示し、そこまでするのに何をしなくてはならないかを考えるべきである。

→アンケートの回答率が下がっていることは認識している。教務部長には、具体的なアンケートの実施方法、例えば授業内で時間をとって、学生が教室にいるときにスマートフォン等を使って答えさせること等を指示したところであり、その効果が今後出てくることを期待している。

・大学院文化政策研究科について文化政策研究科は、定員充足率が60%となっている。令和3年度から大学院担当者数の増を図ることとされているが、現状と今後の考え方について、伺いたい。

→今後2つの研究科を1研究科とし、3専攻すなわち、文化政策専攻、デザイン専攻に加えて、グローバル実践デザイン専攻を立ち上げ、学部ではカリキュラムレベルでの連携しかできなかった2学部の連携・協働を図っていく。また、大学院担当教員を増やすことで学部と大学院との連続性を保つようにする。

・高等学校及び中学校の教員免許取得者について、令和元年、2年において、それまでの半数程度に減少しているが、原因と今後の対応について伺いたい。

→平成26年度入学の学生を最後にデザイン学部で美術と工芸の免許の教職課程が廃止になったため、教職課程を履修できる学生の分母が減ったことが一番大きな構造的な理由である。その他、景気が良くなると教職をとる学生は少なくなるという全国的な傾向もある。

・学生が海外留学する際の奨学金等の支援の内容及び具体的にどの方面にどれくらいの学生が留学しているか伺いたい。

→現在、協定校は17ある。各大学1人もしくは2人程度の学生の交換となっており、交換留学先への留学は例年20から30人程度である。その他、自分で留学先を開拓し、休学をして留学する学生もいる。

ウ 審議結果

審議を踏まえ、承認され、役員会に付託された。

(2) 令和2年度 事業報告及び決算報告(財務諸表等)について

ア 趣旨

事務局から、令和2年度 事業報告及び決算報告が説明と併せて、当該事業報告及び決算報告に関して、独立監査人と監事のそれぞれから監査報告書が提出されたことが報告された。

イ 主な意見

特になし

ウ 審議結果

審議を踏まえ、承認され、役員会に付託された。

2 その他

(1) 令和3（2021）年度経営審議会開催日程の変更について

事務局から、第3期中期計画の審議のため、令和4年1月12日に経営審議会を開催することについて説明があった。

以上